1．糖尿病専門医から診る動脈硬化症の病態と治療

糖尿病合併症としての動脈硬化病変の特徴とその治療

－新規糖尿病薬（DPP-4阻害薬，SGLT2阻害薬）への期待－

Characteristics and treatment of atherosclerosis in patients with diabetes mellitus

西尾 善彦 Yoshihiko Nishio

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科糖尿病・内分泌内科学教授

Summary

動脈硬化症とそれに伴うイベントは血管の内皮障害，血管壁の硬化，粥腫形成，粥腫の破綻といった多段階の異常を経て発症し，高血糖や血糖変動は内皮障害や血管壁硬化を進展させる。一方，糖尿病患者では血糖値に関連するリスク以外のリスクも存在する。インスリン抵抗性や高インスリン血症がその１つである。したがって，動脈硬化症の予防には血糖値とそれ以外のリスクにも配慮した治療が必要であり，その点でSGLT2阻害薬は有用であり期待がもてる。インクレチン関連薬に関しても高血糖による内皮機能の改善や壁硬化，肥厚の予防作用が期待でき，動脈硬化症の長期予後改善効果が期待される。

Key words

●高血糖
●心血管イベント
●高インスリン血症
●インクレチン
●内皮機能

はじめに

糖尿病はその定義として慢性の高血糖を呈する疾患であり，合併症は糖尿病に伴って生じる疾患である。動脈硬化症は糖尿病の重要な合併症として認識されているにもかかわらず，慢性の高血糖を呈する前の糖尿病予備軍でも進行することがわかっているし，高血糖の是正を行った多くの血糖介入研究において，高血糖是正が動脈硬化イベントの抑制につながらない結果に終わっている。このように，これまでの研究から糖尿病合併症としての動脈硬化症は細小血管合併症のような高血糖状態にのみ強く関連する合併症ではないことが明らかにされている。

本稿では，これまでに明らかにされた糖尿病の病態と動脈硬化症との関連をレビューし，その予防の観点から近年新たに利用することができるようになったインクレチン関連薬やSGLT2阻害薬治療の動脈硬化イベント抑制効果と今後に期待される点について述べる。

SAMPLE

Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.